

第39回 県経済振興賞

受賞企業の横顔

県内経済の発展と振興に貢献した企業・団体を表彰する2022年度の「第39回県経済振興賞」の受賞企業に、設備工事業のナンバ(長岡市)、システム開発のメビウス(新潟市中央区)、靴下製造の山忠(加茂市)の3社が決まった。各社の歩みや業績、トップの言葉を紹介します。表彰式は6月20日、新潟市中央区の新潟日報メディアシップで行われる。

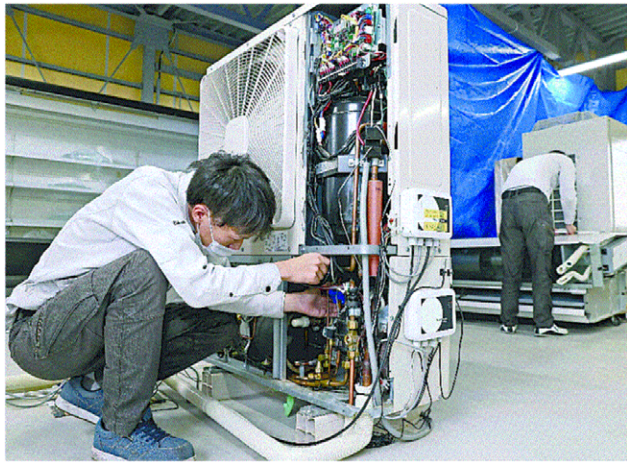
上

食品などを冷やすのに欠かせない冷媒物質のフロンが、冷凍・冷蔵設備から漏れるのを検知するシステム「フロンキーパー」を開発し、販売している。温室効果ガスでもあるフロンの早期検出と機器の補修により、スーパーや食品工場などの電気代の増加を抑えるだけでなく、地球温暖化の防止にも貢献している。

1972年、現会長の難波昇一氏が冷凍設備の設計、施工などを手がける「難波冷凍工業」として創業。73年に法人化し、75年には現社名に変更した。長岡市近辺から営業エリアを広げていった。当初からフロン対策には力を入れてきた。製造大手に勤務経験のある難波氏は、頑丈な冷凍機でもフロンが漏れると壊れることを知っていた。フロン漏れはコスト要因

ナンバ (長岡市)

〈概要〉本社所在地 長岡市三島新保▽
資本金 5000万円▽売上高 15億6800万円
(2021年10月期)▽従業員 63人



フロンキーパーを取り付けて実験中の冷凍機をチェックするナンバの従業員＝長岡市



難波俊輔社長の話

フロンは冷凍冷蔵に必要である一方、どれほど設備の施工技術を高めても漏れが生じてしまう。その事実や、早い段階で気付けば漏れ

出量を抑えられることを知ってもらいたい。

環境問題への意識が高い企業が増えてきたが、業務用の冷凍冷蔵機器に点検や報告の義務があることを知らない事業者はまだ多い。地球温暖化防止への貢献をミッションとし、事業を展開していきたい。

ともなる。近年の研究では、漏れ率が30%になると、冷やす機能の低下に伴い消費電力が60%増えることが分かった。

02年には自社で販売、施工した機器からの漏れに無償で補修する「10年保証」を始めた。従業員の多くが冷凍機の施工や管工事などの専門資格を持ち、対応している。漏れをゼロにすることはできないが、早く気付けば漏れ量を減らせる。フロンは液体状のとき、量が減ると気泡が生じる。ここに注目し、気泡を常時監視できる仕組みとして開発したが、設備に取り付けるだけで異常を検知する

フロンは70年代、大気中に放出されると、紫外線を吸収するオゾン層を破壊すると指摘された。その後主流となった。フロンは配管の腐食部分などのごく小さな穴からゆっくりと漏れる。そこでまず、溶接技術を高めるなど漏れリスクを減らす方策を追求。20

フロン検知器を開発 温暖化防ぎ 電気代抑制

が増す物流業に狙いを定める。冷凍機の普及が進む東南アジアへの展開も視野に入れている。